国際交流ウォーキング大会
＆日韓シンポジウム
報告書

国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム
実行委員会

“国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム”参加の皆様へ

本日は、「国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム」にご参加いただき誠にありがとうございます。

この大会の主旨は「北九州地域に長く定住している在日韓国人を始め諸外国の人々国籍や民族の異なる市民が互いに尊重し合い、相互理解に基づく多文化共生社会の在り方を考える機会とする」ものです。

今回、初めての企画であるため、皆様には何かと不手際や行き届かない点があるかと存じますが、寛大なお心でご容赦賜りますようお願いいたします。そして、今日一日、ウォーキングにはじまり、日韓シンポジウム、バーベキュー大会と盛り沢山の催しを楽しんでお帰り頂ければ幸いです。

ウォーキング大会は、ＮＰＯ法人北九州ウォーキング協会の絶大な協力により実現できました。コース設定から参加者募集、ウォーキング指導、大会運営等、多くのスタッフからお力添えを頂きました。

九州国際大学には会場の提供をはじめシンポジウムの準備全般を担当いただき、記念講演とパネルディスカッションを開催する運びとなりました。記念講演をご快諾下さいました駐福岡大韓民国総領事館の朴鎭雄総領事様の記念講演「文化で近づく隣国・韓国」は、たいへん興味深いお話が伺えるものと期待しております。

また、日韓学生によるパネルディスカッションでは５０年後の日韓関係を創り出す世代の意見を聞きながら、日韓関係の将来を考えてみましょう。

さらに、参加者皆様の交流と親睦を深めるため、バーベキュー大会を準備しておりますので、是非ご参加ください。

最後に、協賛いただいた関係各位には物心両面の援助を賜り、衷心よりお礼申し上げます。

２０１６年2月１４日

国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム実行委員会

委員長　　金　　基　浩

2016年2月14日(日) 8時00分～17時30分

国際交流ウォーキング大会 &日韓シンポジウム

主催
国際交流ウォーキング大会
&日韓シンポジウム
実行委員会

1 国際交流ウォーキング大会

時間 8時00分～12時00分

集合場所 東田大通公園（JRスペースワールド駅近く）

コース 東田大通公園をスタートし、九州国際大学をゴールとする
10kmコースと7kmコースのいずれかを選択できます。

2 日韓シンポジウム『未来に向けた日韓交流を考える』

時間 13時00分～15時30分

開会挨拶 九州国際大学 堀田泰司 学長

記念講演 駐福岡大韓民国総領事館 朴 鎮雄 総領事

日・韓の学生によるパネルディスカッション：日本人学生、韓国人留学生、在日韓国人学生、他

3 バーベキュー大会

時間 15時45分～17時30分

場所 九州国際大学 KIUホール前広場

後援：
北九州市、北九州市教育委員会
(公財)北九州国際交流協会
(公社)北九州市観光協会
JICA九州、駐福岡大韓民国総領事館

参加定員： 300名

参加料：
500円（スポーツ保険料、ゼッケン、他）

申込締切： 2016年1月20日（水）

問合せ先：
（事務局）在日本大韓民国民団福岡県小倉支部
〒803-0812 北九州市小倉北区室町2-2-5
TEL:093-561-3965 FAX:093-592-3650

国際交流ウォーキング大会

主　　管　NPO法人北九州ウォーキング協会(北九州市との協働事業)

期　　日　平成28年2月１4日（日）　　※雨天実施

集合時間　午前 8時00分
午前 8時00分～8時30分　　※希望者向け初心者ウォーキング教室を開催

集合場所　東田大通り公園広場(JRスペースワールド下車5分)
(出来るだけ公共交通機関をご利用ください.)

開 会 式　午前 8時30分

出　　発　午前 9時00分～12時00分頃(ゴール地点、九州国際大学に到着)
ウォーキング 所要時間　約3時間
昼食（12時～13時）、場所（九州国際大学内食堂、他）　　※昼食は各自持参

参加対象　300名　（事前申し込みによる登録が必要です）
北九州市に定住する諸外国の人々及び外国人留学生

参 加 料　500円（保険料、ゼッケン、簡易地図、他）
但し、NPO法人北九州ウォーキング協会は400円

携 行 品　水筒、弁当、雨具は各自持参してください。

そ の 他　事故対応については、主催者側が応急処置のみ行い、
日本ウォーキング協会傷害保険の範囲内で対応致します。

コ ー ス

10km コース	東田大通公園～長崎街道東田遊歩道～東田第一高炉跡～白三十銀行(1.6km)～桃園公園(4.0km)～ふじた通り経由曲里松並木公園(6.4km)～古官道～撥川・古官道経由桃園球場(9.6km)～九州国際大学(10km)
7km コース	東田大通公園～東田長崎街道遊歩道松並木～東田第一高炉跡～八幡製鐵旧本事務所(1.8km)～高炉台公園(4km)～芳賀大谷会館(4.8km)～九州鉄道尾倉橋梁跡～九州国際大学(7km)

主　　催　国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム実行委員会

後　　援　北九州市、北九州市教育委員会、北九州国際交流協会、北九州市観光協会、
JICA九州、駐福岡大韓民国総領事館

問合せ先　NPO法人北九州ウォーキング協会　093-883-7444

申込方法　別紙フォーマットに記入し、下記にお送りください。
FAX:093-883-7380　　E-Mail:kwa@aroma.ocn.ne.jp

２月１４日(日)冷たく、強い嵐の様な風が吹きました。
立春を過ぎると春へのいざないは「三寒四温」を繰り返して進みます。
それも、自然との楽しい戯れと思い過ごせば春も近く感じられる事になりますネ。
そんなチョット冬に逆戻りしたような寒さの中、「国際交流ウオーク」が開催されました。
この大会は、北九州地域に長く定住されている在日韓国の方をはじめとする諸外国の国籍や民族の異なる人々が互いに尊重し合い、相互理解を深め楽しく交流出来るように・・・と、企画されました。
８時、ＪＲスペースワールド駅近くの東田大通公園集合です。
冷たい風が吹いてとても寒い中、沢山の方が参加されました。

準備体操をします。今日は冷たい風が吹いて寒いです。
しっかり体操をして身体を温めましょう。

１０キロコースは、その後、曲里の松並木へ

ここから高炉台公園に入ります。スタートから約４キロ地点です。

高炉台公園～八幡東区役所～尾倉町へ。尾倉町の九州鉄道尾倉橋梁跡を通ります。
九州鉄道尾倉橋梁は明治 24 年(1891 年)に開通した九州鉄道大蔵線の橋梁で、イギリス積の煉瓦で造られたアーチ橋です。大蔵線は明治 35 年(1902 年)の戸畑線(現・鹿児島本線)の開通により、
明治 44 年(1911 年)9 月に廃線となりました。

九州国際大学に到着！！

ここがゴールです。

日韓シンポジウム

国交正常化50周年を経た日韓両国は経済・文化面で緊密な関係を維持し、人々の活発な交流によって相互理解が深まっている。
互いの文化や価値観を受け入れることで政治的な軋轢を乗り越え、親密な交流史に基づく歴史認識の共有・拡散が望まれている。こうしたなか、50年後の日韓関係を創り出す世代の意見を聞き、日韓交流の将来を語り合う。

＜開催概要＞

日　時　：　2016年2月14日(日)　13時00分～15時30分

場　所　：　九州国際大学　KIUホール

テーマ　：“ 未来に向けた日韓交流を考える ”

＜開催挨拶＞ 13時00分～13時05分
九州国際大学　　堀田泰司 学長

＜記念講演＞ 13時10分～14時10分
“文化で近づく隣国・韓国 ”
駐福岡大韓民国総領事館　朴　鎮雄 総領事

＜日韓学生によるパネルディスカッション＞ 14時30分～15時30分
・パネラー：日本人学生、韓国人留学生、在日韓国人学生、他
・コーディネーター：九州国際大学国際関係学部教授 森脇喜一
・使用言語：日本語

主　催　国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム実行委員会

後　援　駐福岡大韓民国総領事館、北九州市、北九州市教育委員会
(公財)北九州国際交流協会、(公社)北九州市観光協会、JICA九州

＜記念講演＞

“文化で近づく隣国・韓国”

駐福岡大韓民国総領事館　朴 鎮 雄 総領事

＜講師略歴＞
1960年8月生まれ。1984年9月、中央大学校貿易学科卒業、韓国外務部(省)入省、1989年5月、米テキサス大学国際政治学(修士)卒業。
駐バンクーバー総領事館領事、駐フィリピン大使館 2等書記官、駐福岡総領事館領事、駐香港総領事館領事、駐台湾代表部副代表、駐瀋陽総領事館副総領事、駐上海総領事館副総領事などを歴任。2013年5月より駐福岡総領事。

＜パネルディスカッション＞

“未来に向けた日韓交流を考える”

● パネラー

- 任　昌 敏（九州国際大学 国際関係学部4年）
- 坂東広太郎（九州工業大学 工学府修士課程1年）
- 東　優里佳（北九州市立大学 外国語学部4年）
- 朴　成 華（在日本大韓民国青年会）
- 森　加奈絵（九州国際大学 国際関係学部4年）

● コーディネーター

- 九州国際大学 国際関係学部教授　森 脇 喜 一

開 会 挨 拶

九州国際大学学長　堀田 泰司

九州国際大学学長の堀田でございます。
日韓シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日、多くの市民の皆様をお迎えして「日韓シンポジウム」を開催し、駐福岡大韓民国総領事の朴鎭雄様にご講演いただくことをたいへん光栄に存じます。
周知の通り、日韓両国は昨年、国交正常化50周年を迎えましたが、歴史認識の違いなど、今尚、両国間で知恵を絞り、克服すべき課題は数多いように思われます。しかし、こうした軋轢も善隣友好を望む多くの人々の情熱によって和らぐ方向にあり、年間延べ5百万人を超える両国民の往来には目を見張るものがあります。

特に、地元九州の状況を見てみますと、ここ数年来、外国人観光客の6割以上が韓国からの観光客であり、韓国の諸都市と姉妹提携を結ぶ自治体が多いのも九州地域の特徴です。
日韓両国が「近くて遠い国」から「近くて近い国」へと変化していくなかで、より一層、相互理解を深めることが重要であることは言うまでもありません。そして、先ず日韓両国がそれぞれに国や民族中心の歴史観を乗り越え、両国間の歴史認識の差を明らかにすることを躊躇わない共感形成が必要ではないかと思います。

午前中のウォーキングでお疲れのことと思いますが、朴鎭雄（パク ジンウン）総領事のご講演を拝聴し、これから50年後の日韓関係を創り出す世代の率直な意見を聞き、隣人・隣国としての日韓関係の将来を考えてみたいと思います。

シンポジウム終了後にはバーベキュー大会も準備されておりますので、今日一日、国際交流と日韓関係に思いを巡らせていただきたいと存じます。本日はご参加いただきありがとうございました。

記 念 講 演

“ 文化で近づく隣国、韓国 ”

駐福岡大韓民国総領事　朴 鎭 雄

Ⅰ.　韓日関係の歴史的背景

約 2500 年前、武力衝突を避け日本列島に避難してきた渡来人達は、日本に青銅器や稲作などを伝え日本文化の発展に寄与した。韓国で発掘される遺物と吉野ヶ里遺跡の遺物は同じものが多く、その遺物から加羅と渡来人の関係がわかる。

三国時代に加羅から日本に様々な文物が伝えられ、百済から儒教、陶器、天文学。高句麗からは仏教や墨絵の製法が伝えられた。高麗時代には統一新羅の時代よりも盛んに貿易が行われたが、元の日本遠征(元寇)にも加わった。

朝鮮時代の初期、日本との関係は友好的であったが「文禄・慶長の役」に因り関係が悪化した。その後、日本に連れてこられた陶工によって日本国内で有田焼などの陶磁器生産が始まった。疎遠になっていた朝鮮との関係が徐々に回復し、徳川政権になって対馬藩を経由して朝鮮通信使が復活した。

近代になって韓国は日本に国家主権を奪われ、今なお歴史認識の相違が大きな課題になっている。

朝鮮戦争によって半島は南北に分断され、1965 年に日本と韓国は国交を回復した。その後、韓国は目覚ましい経済成長を遂げたが、その間、日韓両国の感情的な対立がしばしば表面化した。昨年は「ともに開こう新たな未来を」というスローガンのもと、日韓の溝を埋める努力が行われ、12 月には日韓首脳会談が開催された。

Ⅱ.　日本と韓国

ソウルと福岡の距離は約 400 km。日本にとって韓国は地理的意味だけでなく言語や文化が似ているという点でも重要である。また経済面においても日韓両国は東アジアを代表する国として経済連携が必要であり、東アジアの大切なパートナーとして韓国は日本や中国との関係を強化している。

日本と韓国は市場経済と民主主義を共有しており、韓国は IT 技術において最先端にあり、高等教育の需要者はシンガポールに次いで２位。教育熱が高く、多くの人々が様々な国で留学や企業活動を行っている。
そのため、日韓は互いの長所(日本の技術や情報力、韓国の推進力、マーケティング能力)を生かしながら、協働することが大切である。

Ⅲ.　韓国伝統文化と韓流

グローバル化時代において隣国の文化を調べることは、隣人の人生を理解することと同様である。

元来、食べることは病気を予防することであり、韓国には「薬食同源」という言葉がある。韓国の代表的な料理「ビビンパ」は野菜とご飯を混ぜて食べるものであるが、ただ単に混ぜるだけではなく、互いに混じり合い新しいものを生み出す。これは韓国人の「生」を物語っている。また、韓国と日本・中国では箸とスプーンの使い方が異なる。韓国では日本のように器を手に持って食べないなど作法の違いがある。

キムチは多くの人が家庭で作っている。古来よりキムチはあったが、今のような赤いキムチは日本から唐辛子が伝来してからである。キムチは二百種類以上で、どの家庭でもキムチを作るが地域や季節によって異なる。冬の恒例として家族皆で伝統的なキムチを作る「キムジャン」がある。キムジャン文化は「世代を越えて受け継がれ、共同体の絆とアイデンティティを高めている」ことから、2013 年ユネスコ無形文化遺産に選ばれた。また韓国料理の多くが発酵食品で、屋台にはトッポッキやキムパプなど安くて気軽に食べられるものが多い。

ハレの日には韓国では韓服を着る。韓服には韓国の哲学や美しさが潜んでいる。色彩が鮮やかで直線と曲線が調和しており華麗なデザインである。チマチョゴリは脚を長く見せる効果があり誰でも着こなせる。またアクセサリーを加えると優雅になるチマチョゴリは、世界でもファッションアイテムとして注目されている。

韓国にはオンドルという家屋構造がある。オンドルは室内を暖めるだけでなく、料理をする際の熱でオンドルの石を温める。暖房と炊事が同時にできる。その方法は儒教文化によるものであるとも言われている。
現在では西洋化された家屋も多いが、高層住宅にもオンドルがあり、暖かい温もりを感じることができる。

韓流とは世界市場において韓国大衆文化を指す用語で、1990年代に中国のマスコミで初めて使用された。
2002年「冬のソナタ」が日本で放送され人気を博し、世界市場に拡散した。第二次韓流ブームは東方神起や少女時代を始めとするK－POPが中心であるが、最近ではドラマやK－POPだけでなく、新しいコンテンツとしてゲームが台頭してきた。

2013年、韓国の文化輸出の7割をゲームが占めており、2000年代初頭のPCオンラインゲームから現在のモバイルゲームに拡がっている。韓流は衰えることなく日本で人気が高まっている。現在、韓流のマーケットは東南アジアやヨーロッパ、中南米に拡大しているが、日本でのコンサートやアルバムの収入は大きく、日本は最大のマーケットになっている。一方、日本のドラマやJ－POPの人気も韓国で高まっている。

韓流の世界化は、大手プロダクションの世界進出、様々な文化の融合、独創的なコンテンツ、真似しやすい振付やSNSを積極的に活用したことがその要因である。多様性や相手の文化を理解し、積極的に交流することで互いのサブカルチャーがグローバル化すると考えられる。

Ⅳ.　九州への期待

日韓関係が難しい時期でも九州を訪れる韓国人は多い。自治体も活発に交流しているため九州は日韓の葛藤を和らげ、相互交流を拡大させるモデルとしての役割が期待されている。済州島にはトレッキングコースの済州オルレがある。九州でもマーケティングされた九州オルレがある。九州オルレは単なる観光コースでなく両国市民が共に歩き交流する場であり、九州と韓国が繋がっていることが実感できる。

韓国から九州オルレに参加するため、九州を訪れる人や九州から韓国のオルレに参加する人も多い。日韓関係発展のひとつとして、九州オルレのように文化交流の範囲を拡げることが大切である。相手の立場になって考えてみる寛容の精神を九州に期待している。こうして互いの真の姿を知ることが相互理解の目的である。

Ⅴ.　まとめ（縁を大切に）

駐福岡大韓民国総領事館では九州オルレで市民と交流し、互いの考えを共有する事業を行っている。昨年からオルレに福祉施設訪問などの新しいプログラムを導入。九州内の韓国探し事業を通じて、九州と韓国の過去・現在・未来を話し合う機会になった。また、日韓国交正常化50周年企画を行い、毎年、韓国の食文化を体験できるイベントを開催している。

日本と韓国は古くから活発に交流し、良好な関係を維持してきた。今後は互いの文化を知り、理解することが重要であり、互いに譲り合う意識も必要である。今日の問題解決の糸口が九州から芽生えることを期待する。

パネルディスカッション

“未来に向けた日韓交流を考える”

● 只今からパネルディスカッションを始めます。本日は北九州市内の大学で学ぶ学生の皆さんと民団青年会の方に出席していただきました。進行方法としては各パネラーの皆さんに意見を伺った後、10 分程度、会場の皆さんからのご質問を受け、各パネラーに答えて頂くという形にしたいと思います。まず初めに本日ご出席のパネラーの皆さんに自己紹介をお願いしたいと思いますが、その折に韓国や日本に関心を持った理由も合わせてお話しください。

東：北九州市立大の東です。私は 3 年生の 2 学期から 4 年生の 1 学期まで韓国の仁川大学校に交換留学しました。私は中学生の時、地元の宮崎県が主催している日韓青少年交流事業を通してはじめて韓国に行くことになり、それ以来、韓国にずっと関心を持っています。

坂東：私は去年、2 週間程、また 1 ヵ月前に 1 週間、韓国の釜山大学校に短期留学をしました。私の場合、語学留学ではなく共同研究が目的で、特別に韓国を選んで留学した訳ではないのですが、2 回の留学やこのようなシンポジウムに参加させていただき、何かと縁がある国だと思っています。

朴：北九州市八幡で生まれ育った在日コリアン 3 世です。私自身は韓国語を話せません。留学経験もなく、ハングルは読める程度です。今日は大学生に囲まれ自分では違和感なく、馴染んでいると思っています。普段は社会人をしており、社会福祉関係の仕事をしています。韓国に関心を持ったのは青年会に参加してからです。初めて青年会に参加したのは 20 歳の成人式の時ですが、綺麗なチマチョゴリを着たいという単純な理由で参加しました。青年会というのは韓（朝鮮）半島にルーツを持つ 18 歳から 35 歳までの在日韓国人を対象にしていますが、出会いと交流の場として共に語ったり、学んだりする場を提供することで、個人の成長だけでなく、共生社会の実現や韓日の架け橋としての役割を担うことを目的として活動をしています。私自身を周りの方と比べると政治や歴史にあまり興味がない方だと思っているので、余計にそんな場の必要性を感じて、今の活動に日々参加しています。

任：私は韓国人留学生です。東京で 1 年間、日本語学校に通い、北九州ではこの 3 月で 4 年程になります。私が日本に興味を持ったきっかけは高校の時、母がいきなり日本語の勉強を始めて、それを見て面白そうだと思い、学び始めました。しかしテキストの勉強にはあまり興味がなかったので、テレビや日本の音楽を聴きながら、日本文化や日本社会への関心が高まり、日本への留学を決心しました。

森：私は大学 2 年の時、1 年間、ソウルにある漢陽大学校に交換留学をしていました。韓国に関心を持った理由は高校生の時に、たまたまテレビで流れていた韓国出身の女性歌手の音楽を聴いたことです。

● 私も 1975 年から 7 年間ソウルに留学しましたが、皆さんの話を聞きながら当時のことを思い出しました。その当時、韓国の大統領は今のパク・クネさんのお父さんのパク・チョンヒさんでした。その頃の日本のマスコミ報道は韓国を軍事政権の厳しい国と伝え、東京の大学では北朝鮮関連の講演会が盛んに行われていました。そんな中でソウルに行ったわけですが、40 年前のソウルの光景は、今でこそ大都会ですが、田舎都市といった風情で、日本との格差を強く感じました。

そこで皆さんに伺いますが、留学生活を通じて感じた事、驚いた事などについてお話しください。特に留学前のイメージと大きく異なった点などあれば紹介して下さい。

森：日本との違いはほとんど感じられませんでした。些細な事ですが、留学当時は韓国国内の日用品などの価格高騰が激しかったので、生活必需品の値段がとても高く、現地の方も困惑している様子でした。韓国は日本よりも物価が安いと思っていたので驚きは大きかったです。しかし実際に生活してみると、その国の経済水準や生活様式が身をもって分かるようになりました。学生なので金銭的には大変でしたが、韓国人と日本人の生活の違いなど、それぞれの特徴が改めて良くわかったと思います。韓国で生活する市民感覚というものを直接、肌で感じることができた１年間でした。

東：実際に留学して感じたのは、街に出たときに意外と日本食レストランや日本式の居酒屋が多かったこと、図書館や書店に日本人作家の小説が沢山あったこと、日本の漫画やアニメーションに関心を持っている人が多いのに驚きました。

任：日本人が親切で優しいのはだれも感じることなので、ちょっと違う視点から話すと、日本はまだアナログ的なことが多いと思います。先進国なのにメールよりも郵便の方が多く、文章も手書きが多い。大学でも成績表をネットで見るのではなく、紙で配布されるなどアナログ的だと感じました。しかし、今言ったアナログというのは、決して「遅れている」という意味ではなく、自分たちのやり方を守ろうとする考え方や姿勢を感じました。私が良いと思うのは、正月に年賀状を送ったりする習慣です。また、レストランで親が子どもと一緒に食事している時、子どもが隣にいるのに煙草を吸っているのを見かけた時は驚きました。日本もさまざまな人々が住んでいる社会なので、優しい人もいれば、そうでない人もいるということを感じました。

● 任さんが言ったアナログ的であるというのはとても新鮮な気がしました。年賀状は我々の習慣になっている訳ですが、外国から見ると日本の良き伝統という意見をしばしば聞きます。一方、韓国でよく見かける光景として、目上の人の前では煙草を吸わないとか、所謂、儒教的な意識を感じます。坂東さんの場合、韓国旅行や韓国人留学生との交流を通じて違いを感じたことがありますか。

坂東：人柄として、韓国の方は本音で話す人、思ったことを率直に言う人が多いと感じました。日本人は建て前やオブラートに包んだ表現を好むようですが、韓国では本音で語り合う熱い人が多いと感じました。また、日本は環境に配慮した国だと思っていますが、韓国では木の割箸がなく、ステンレスの箸で食べるなど環境を気にしているようです。日本でもレジ袋を有料化している店が多くなっていますが、韓国は日本より徹底しています。日本だと靴屋や服屋で宣伝も兼ねた店舗名入りのポリ袋が当たり前のようですが、韓国ではそうではないようで環境に配慮する意識が高いと思いました。

● 日韓はとても近い国ですが、そういった小さな驚きが良い参考になります。次に朴さんにうかがいますが、在日コリアンの立場から、最近の韓国の文化や社会について感じることがありますか。

朴：私自身、プライベート旅行はもちろん、青年会の母国研修で韓国に行ったことがあります。その時、非武装地帯のDMZに行ったのが一番印象に残っています。北朝鮮側が侵略目的で掘ったとされるトンネルを、ヘルメットを被って長時間歩いたり、38度線を展望台から眺めたりしました。近づいていい距離まで行って、友達に肩車をしてもらい写真を撮ろうとしたら、武装した兵隊が近づいてきて怒られ、とても怖い思いをしました。私の認識不足もありましたが、38度線は単純な国境ではなく軍事境界線であって、まだ戦争が続いているのだと肌で感じました。とても日本では感じることのできない緊迫した雰囲気でした。韓国は先進国に仲間入りしましたが、戦争の影を払拭できない点で心休まることがないと感じました。

● 私もみなさんと同じような年代の頃、韓国に留学していましたが、改めて自分の国、日本の魅力・特徴などに思いを巡らことが多々ありました。留学を経験した皆さんは、海外生活の中で自国に対する思いが交錯するような経験があったと思いますが、韓国に留学して改めて感じた日本の特徴や魅力があればお話しください。

東：私は日本の魅力としてサービスの良さがあると思いました。東京オリンピック誘致の際に話題になった「おもてなし」という言葉があります。もちろん韓国にも親切な方はいましたし、外国人である私に対して温かく接してくださる方も沢山いました。帰国して感じたのは地方のコンビニやスーパーであっても、サービスの良さが根付いて、私たちが当たり前と思っている部分が、日本の魅力と捉えても良いのではないかと感じました。

森：私は留学中、外国人の友人から日本人は勤勉で几帳面、真面目で努力家だと言われたことがあります。日本人は真面目な人が多いと感じていたのですが、多くの友人から言われたので驚きました。私に韓国語を教えてくださっていた韓国語の先生に日本の印象はどうかと尋ねてみたところ、「日本人は親切で怒る人も少なく、物静か」と言っていましたが、その反面、「何でもないのにすぐ謝ったり、お礼を言ったりする割にあまり喋らないので、考えていることが良くわからない」とおっしゃっていました。いままで気づかなかったのですが、これも日本人の特徴だと思います。その後、安易に謝罪の言葉を使うのを止めました。謙虚さは日本人の美徳と思っていますが、韓国で学ぶ外国人からこうした意見を聞くことができて参考になりました。

● 任さんは日本で過ごされて、改めて韓国の良さ、特徴として強く感じたことがあると思いますが。

任：韓国の魅力は、同じ値段でも日本ではお腹いっぱいになりませんが、韓国では腹いっぱい食べられます。北九州とソウルを比べてみると、4年前に北九州に来た時、夜7時頃になると多くの店が閉まっていて驚きました。ソウルは繁華街でなくても夜遅くまで安全に遊べるところがあるのが魅力だと思いました。特徴としては「早さ」をいつも感じます。それは良い面も悪い面もあります。 個人的な経験ですが、韓国の免許証を日本の免許証に変更しに行ったのですが、その時、4時間程かかりました。しかし、実際の手続時間は10～15分程しかかかりませんでした。ずっと待ち時間でしたが、韓国では有り得ないことなので日本人は待つのが当たり前と考えているのかと思いました。韓国の「早さ」は良い特徴だと思いますが、バスやタクシーなど乗り物のスピードの速さには怖さを感じることもあります。

● 任さんは4年間でこの日本語力です。韓国の学生は大変日本語が上手です。本学でも多くの学生がハングルを学んでいますが、韓国人留学生に比べるとまだまだ鍛えなければと感じます。続いて、朴さんにお伺いしますが、在日コリアンという立場から、生活文化や社会習慣で日本と韓国の違いを強く感じる点はありますか。

朴：私は在日コリアンですが、韓国の友人、在日韓国人の友人、日本の友人など色んな方とコミュニケーションを取っていますが、コミュニケーションの場において大きな違いを感じることがあります。日本は建て前と本音を使い分ける習慣がありますが、韓国は建て前の文化を持たない国だと思っています。後はコミュニケーションの場においてスキンシップを取るということが日本はあまりないように感じます。握手するという行為自体が仕事で契約を結んだ時や政治家の握手などを目にする程度です。韓国人は友達と会えば握手をする、肩を組むといった文化があるように思います。実際に在日コリアンが集まった時には、男性陣は皆で握手し合って、一周回って終わる頃にはビールの泡も無くなっているような印象があります。そういった面からすると日本の遠回しの表現は外国人からすると、複雑で分かりにくい表現なのかもしれません。韓国は、日本社会で育った私にとっては少しきつく感じる一面もありますが、表現もストレートで率直な印象を受けます。どちらにしても長所短所があり、どちらが良いということはなく、そうした特徴を知るのが相手のことを理解することではないでしょうか。

● 最後の質問になってしまいましたが、今日のテーマでもあります日韓の将来、私が韓国に関心を持って既に40年が経ちましたが、これから50年、おそらく皆さんが主役となって日韓関係を進めていくことになると思います。そこで皆さんに伺いますが、これからの日韓交流にとって何が大切だと思いますか。色紙に書いて頂いたキーワードを示しながら、何故、今後の日韓交流を発展させる上でそれが大切なのか説明してください。

坂東：私は「人の往来」と書きました。現在多くの日韓の人々が行き来していると思いますが、もっと大勢の人がお互いの国を行き来することでネットや本では教えてくれないことが分かります。このようなシンポジウムは特別な機会と思いますが、友達や家族に韓国はこういう国だったとか、日本はこんな良いところがあったということを少しずつ広めていくことがいちばん大事だと思います。そして、その話を聞いた人が相手の国に興味を持ち、少しずつ相手の文化を理解することが、今後、より良い関係を築くために大切なことではないかと思います。

任：私は「主観」という言葉にしました。辞書で調べると、自分なりの見解、観点、考え方といった意味ですが、ここで話したいことは、韓国人は日本人に対して、日本人は韓国人に対して自分なりの考え方を持ってほしいです。例えば日本のある政治家が発言をしても、日本ではそんなに大げさなことでもなく、少数の意見に過ぎませんが、韓国のマスコミはそれをすごく大げさに報道したりします。逆に日本のニュースでは韓国で反日デモが起これば、すごく大きく報道します。しかし、それは本当にごく一部の人に過ぎません。こうした報道を見て残念に思うのは、そうしたニュースを通じて簡単に相手国のイメージを決めてしまうことです。日韓の問題について、自分なりの考えを持つことが必要だと思います。ネガティブな事や悪い状況だとしても、人の意見やニュースに流されるのではなく、自分で考えることが今後の日韓関係の発展に役立つと思います。両国の国民がマスコミ報道や偏った本などの意見に惑わされず、自分なりに、お互いの国について考える人々が増えれば、これからの日韓関係は良くなると確信しています。

朴：私は「相互理解」と書かきました。理由としては、やはりいろんな人が居て、いろんな考えがあるので、文化や歴史、国民性をただ知るだけでなく、理解し合うことが大切だと思いました。同じ国籍や文化を持った者同士でも誤解や衝突があり、兄弟でさえそういったことがあります。ましてや違う国となると尚更だと思っています。加えて領土問題や歴史認識などの課題が立ちはだかり、どうしても政治的な影響を受けやすく、前に進めないように感じています。しかし、ただずっと立ち止まっている訳にもいかないので、先ずは隣の国の事を知るのが大切だと思います。また、自国や自分自身のことを知ってもらうためには、自分を「知る」ことがとても重要だと思いました。

森：朴さんと同じく「相互理解」を挙げました。現地の一般の方と生活しながら市民感覚を知るのが、相互理解の手っ取り早い方法だと思いますが、それをすぐ体験するのは難しい面もあります。日韓関係を改善するには様々な障害があると思いますが、市民レベルでの相互理解は今すぐにでも可能だと信じています。そのため、私は韓国と日本を結ぶ友好に努めたいと思いますし、一人でも多くの人が互いに関心を持ち合い、互いの文化や人間性、言語を理解しようとすることが今後の友好な日韓関係のためにはとても重要だと思います。だからこそ、韓国に関心を持つ私達の世代が自分の考えや意見を発信する機会を作らなければならないし、日韓の未来について語り合える場が設けられることを願っています。

東：私が選んだキーワードは「百聞は一見に如かず」です。今は、テレビや新聞だけでなく、インターネットやスマートフォン一つでお互いの国について知ることができます。それはとても良いことだと思いますが、その反面、偏った情報や誤った情報にも簡単に触れることが出来るようになってしまうこともあると思います。情報を得ることや知ることは大事なことですが、メディアや媒体を通じて知ったつもりになる、理解したつもりになるというのでなく、実際に自分の目で見て、自分で感じて、自分で直接聞いたことを基盤にしてお互いを理解していくことが、私たち市民同士の理解を深め、日韓関係を発展させる上でとても大切な部分ではないかと思い、この言葉を選びました。

● やはり今後の日韓を考える上で、若い人がどんどん発言し合える場がもっと必要であると強く感じました。それでは会場の方からの質問を受けたいと思います。質問のある方は挙手をお願いします。

質問１． 私は学生の時にソウルに留学していたことがあります。その当時と今も変わらず感じていることですが、日韓の違いとして、韓国の学生は政治への関心が高く、食事中などにも自然と政治の話になります。よく日韓関係の話をする機会がありました。去年 11 月にソウルに行って久しぶりに当時の友人に会いましたが、やはり自然に政治や国際情勢の話がはじまります。学生当時、そんな機会が比較的身近にあるというのが驚きでした。今の学生は友人と政治の話をする機会が多いのか、また身近な人や家族と政治の話をする場を自らもっと作るようにすれば良いと思いますが、皆さんはどう思いますか？

東： 私も留学中に同じような経験をしました。政治的な話は避けたいと思う部分がどこかあって、踏み込んだ話をしようとしませんでしたが、韓国人の学生や友人から「あなたは独島や従軍慰安婦についてどう思っているの？」と聞かれたりしました。韓国ではそんな話題になる機会は多かったと感じています。

森： 私は政治について韓国の方と話し合う機会はほとんどなかったです。政治の話になると互いに批判しがちな状況になってしまい、友好的な関係を築くのに悪影響を及ぼしかねないので、互いに政治の話をするのを遠慮していたように思います。

質問 2. 韓国ドラマを見ていると、お酒を飲む時に目をそらして飲むシーンをよく見かけます。日本と違った酒席マナーですが、他にも日本と異なるマナー文化がありますか？

任： 確かに日本よりも韓国の方が年齢についての上下関係が厳しいと思いました。日本も職場などでは厳しいと聞いたのですが、韓国では目上の人なら全く知らない人であっても気を遣います。日本の若い人たちが韓国に旅行する時はそういった点に気を配った方が良いと思います。

質問 3. 相互理解が大事だとおっしゃっていますが、理解できないことや少し苦手だと感じたことがあった時、どのように対処しましたか？

任： 先ほどお話ししましたが、4 年間、日本に住みながらムカついたことも沢山ありました。しかしそれもその国の文化であり、理解できないことは、それはそれで仕方ないと思って接した方が良いと思います。

● やはり、若い人がもっと日韓について発言をする場を設けることが大切であると感じます。短い時間でしたが、パネラーの皆さんが要領よく簡潔にポイントを話して下さいました。私自身もたいへん参考になりました。これをもちまして、パネルディスカッション「未来に向けた日韓交流を考える」を終わります。
長時間にわたり、ご傾聴いただきありがとうございました。

バーベキュー大会

九州国際大学 KIU ホール前広場にて

「日韓シンポジウム」で活躍したスタッフの皆さん

九州国際大学国際関係学部ハングルコース（森脇ゼミ）の有志

下畑由樹、小関乃里衣、桑原真衣、斉藤七夢、長谷川桃子、是枝美樹、野村夏希、土谷奈都美

香河妃菜、明石真子

参加者集計

団体名	申込者数	当日参加者数
民団関係	115 名	115 名
九州国際大学関係	75 名	75 名
北九州ウォーキング協会	58 名	50 名
島田先生関係	9 名	11 名
翔青会	6 名	6 名
北九州アジア倶楽部	5 名	5 名
一般	34 名	26 名
合　　計	302 名	288 名

来 賓

所　属	氏 名
駐福岡大韓民国総領事館　総領事	朴　鎭　雄
駐福岡大韓民国総領事館　領事	尹　喜　粲
在日本大韓民国民団福岡県本部　団長	呉　政　夫
九州国際大学　理事長	高野　利昭
九州国際大学　学長	堀田　泰司
九州国際大学同窓会橘会　会長	岡村　聖爾
九州国際大学同窓会橘会　副会長	広瀬　正登
九州国際大学同窓会橘会　副会長	白石　義徳
駐福岡大韓民国総領事館　専門官	趙　一　中
釜山学生教育文化会館　理事	呉　日　煥
釜山学生教育文化会館　理事	金　福　姫
在日本大韓民国民団福岡県小倉支部　団長	金　基　浩
日韓交流連絡会　会長	島田　清

協　賛（順不同）

・在日本大韓民国民団　福岡県本部	・九州国際大学
小倉支部	・九州幸銀信用金庫
八幡支部	・九州幸銀信用金庫　北九州支店
若松・戸畑支部	支店長　野田　陽一
門司支部	・株式会社　泰平住建
遠賀・宗像支部	・株式会社　長谷部電設
婦人会 福岡県本部	・リコホテル小倉
・福岡納税経友会 小倉支部	・コカ・コーラウェストベンディング（株）
会長　南川幸太郎	・西部産業
・在日本大韓民国民団　小倉支部	・有限会社　山栄工業
団長　金　基浩	・株式会社　ヤマキ石材工業
副団長　李　清吉	・株式会社　ヤマキ興産
議長　金　慶鶴	・(有)福祉事業センター　取締役　金山道子
監査院長　崔　福俊	・有限会社　イーズィ
顧問　金　信夫	・有限会社　ワイワイサービス
顧問　朴　璨永	・株式会社　フォワード
顧問　朴　幸男	・株式会社　ライフクリエーション
顧問　金　孝男	・有限会社　大翔建設工業
顧問　丁　萬吉	・有限会社　ビック　大里
顧問　趙　鎮甲	・株式会社　TRコーポレーション
・味の丸屋	・ヨシオカサイン株式会社
・金　渭　出	・株式会社　新日本通商

皆様からの絶大なるご協力とご支援に心より感謝と御礼を申し上げます。

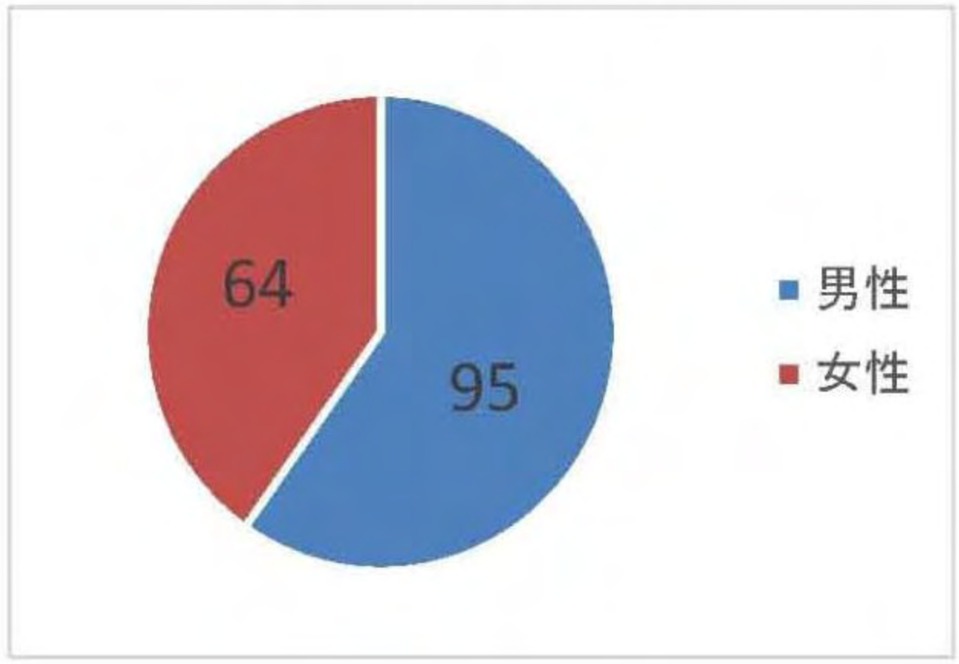
国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム実行委員会

委員長　　金　基　浩　　他一同

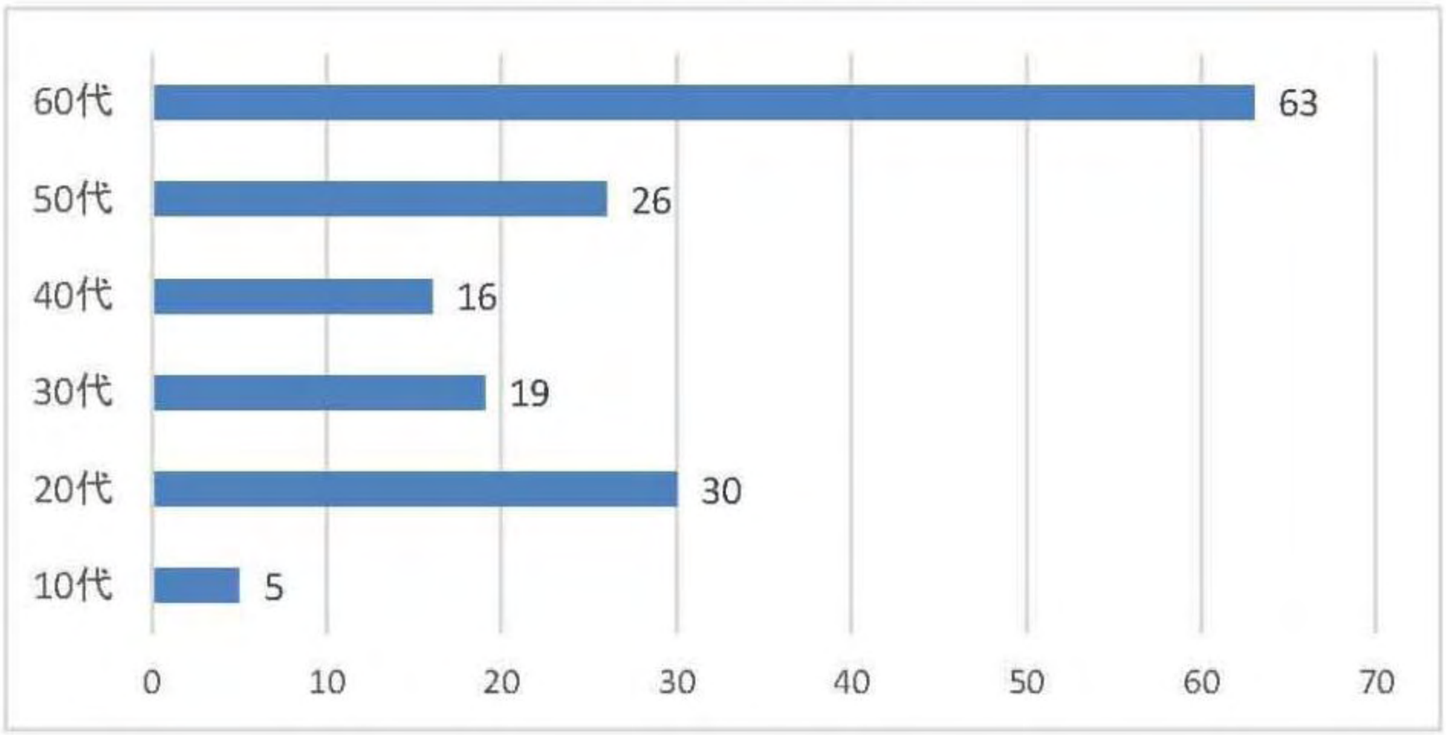
「国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム」アンケート集計

＜回答者総数：159名＞

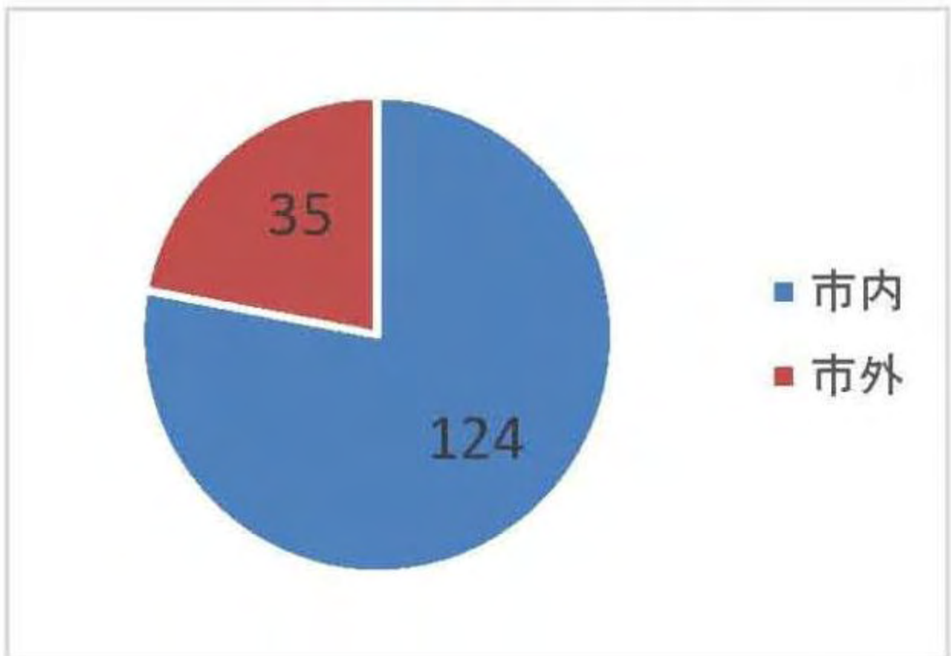
参加者の男女比



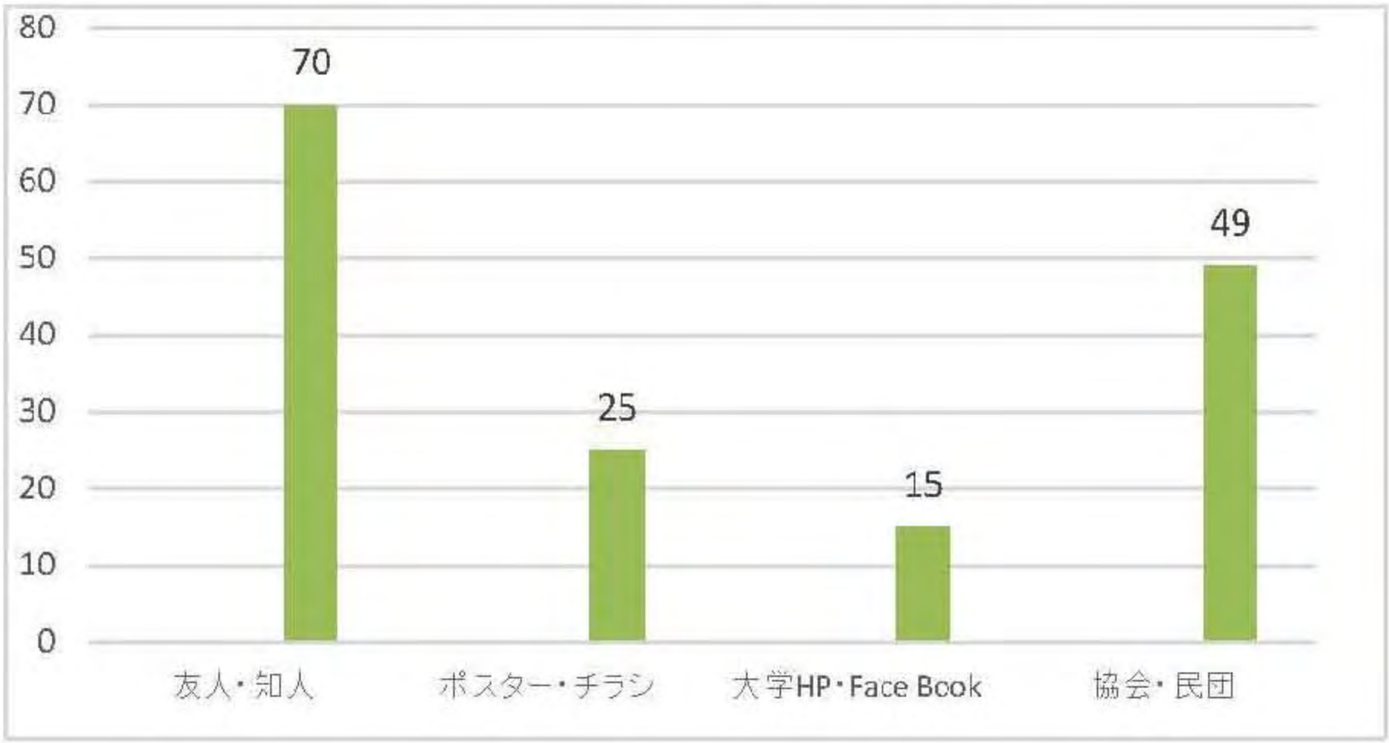
年代別参加者数



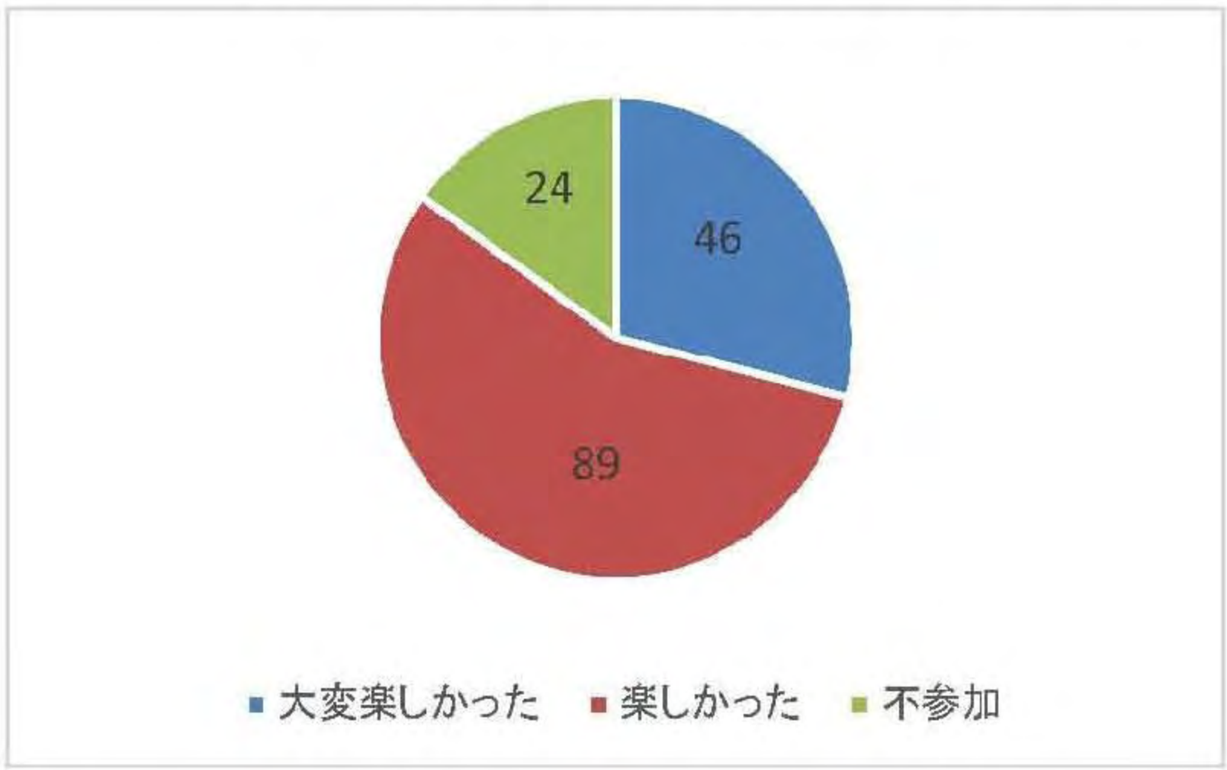
参加者の居住地域



今回のイベントを何で知ったか



ウォーキング大会に参加した感想

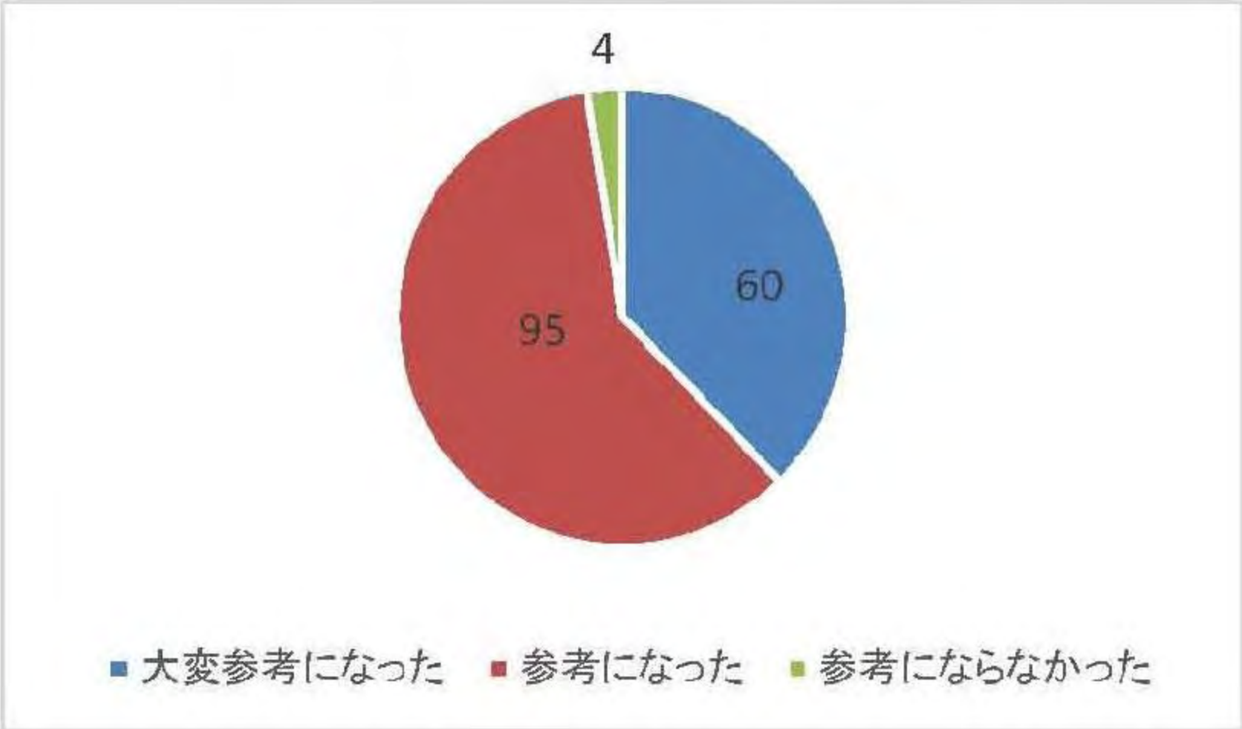


・ウォーキング大会への意見・感想

・天気が良ければもっと良かったと思う
・北九州ウォーキング協会に入会してよかった。これからもウォーキングに参加したい。
・コースと距離がちょうど良かった。
・今後とも続けてもらいたい。
・普段歩くことのないコースを歩いて新しい発見があった。
・ウォーキング参加者同士の交流がもっとあればよかった。
・八幡東区に住んでいるが、JRAの裏側の海辺を歩いたのは初めてで、眺めもすごくよかった。
・各ポイントに簡単な解説があればよかった。寒い中、スタッフの皆さん大変お疲れ様でした。
・10キロのコースが調度よかった。日韓シンポジウムとの共催が良かった。
・7キロの完歩、久々の満足感です。
・なかなか機会がなくて、初めて知ったことがたくさんあった。
・健康のために参加したが、ゆっくりと街を歩き、北九州の魅力を発見した。
・普段の運動不足の解消に役立った。日韓の皆さんと一緒に歩いて楽しかった。
・友人と参加したためか、他の方々との「交流」になったかは疑問。
・年寄りには歩くスピードが速すぎる。もっとゆっくり歩くグループを作っても良いのでは・・・。

・ウォーキング中に韓国の方々と対話するチャンスがなく、残念に思った。交流である以上、対策を考えて頂ければと思う。
・歩くのに必死で、話すことが余りできずに終りました。回を重ね、もっと気軽に話せるようになりたい。
・車では分からない景色が見えて楽しかった。
・普段歩くことが少ないので、良い機会になりました。旧知の人に会いました。
・ウォーキングで韓国人留学生との交流がありませんでした。
・健康に良いウォーキングを楽しむことができた。黒崎周辺の歴史的見どころをじっくり見ることができた。また来年も企画してほしい。
・信号のシグナルに対する警備が不十分では？　右側通行の実行に心がけては・・・。
・道中、在日韓国人のグループとの交流ができたら良かったと思う。
・史跡のパンフレットがあれば良い。
・とりあえず来年も開催されるよう祈っています。
・寒さの中、息子、孫たちと楽しかったです。
・ウォーキング中、街並み等の説明があれば、もっと楽しくなると思います。
・風が強かったですが、楽しく歩くことができました。
・トイレが少なかった。

日韓シンポジウムについての感想



・日韓シンポジウムへの意見・感想

・若い人の素直な意見が聞けた。日韓交流を考える場合、これからの若い人の意見の場が増えることを期待します。
・九州オルレなどで韓国からの観光客も増加。歴史の長いスパンから考えると両国の仲は良かった。必ず友好的な関係になる。
・任さん、東さんのお話しが特に興味深かったです。
・パネルディスカッションをもっと時間をかけて聞きたかったです。
・若い5名の皆様の話を聞けて大変良かった。
・総領事の「草の根」活動は今後の指針になると思う。先ず国ではなく地域が結びつき、その成果を拡大することだと思う。また韓国から見た歴史・文化は勉強になった。パネルディスカッションで若者文化の違いを聞いて参考になった。
・日韓関係の全体を知ることができた。学生たちの若い世代が日韓関係の将来をよく考えていることが分かりました。ありがとうございました。
・実際に韓国で語学留学や研究で滞在した方の生の声が聞けたのでよかった。九州国際大学に留学されている韓国人の方の意見が参考になりました。
・日韓のこれまでの歴史から、これから良好な関係に向けて、非常にわかりやすく講演され、とても良かったと思います。
・お互いの国が半歩ずつ「譲る」心がけが必要と思う。お互い草の根の付き合いをしたい。

・学生の意見が素晴らしかった。
・過去の歴史認識と未来に向けた方向性が平和友好の方向であることを期待する。
・日韓の文化の違いがたいへん参考になりました。
・それぞれの学生がしっかり自分の経験を語っていることに感銘を覚えると共に、こうした若者が今後の両国関係のベースにいることに安心した。皆さんが言われるように市民レベルの交流なくして何も生まれないと思った。その意味で今回のシンポジウムは意義深い企画でした。ありがとうございました。
・パネラーが若い方々だったのが大変よかった。それぞれの考えをしっかり述べられている様子がとても頼もしかった。
・記念講演は素晴らしかった。よく頑張ってました。
・韓国が近い国だとよくわかった。
・パネラーの皆様の意見を聞き参考になりました。またこのような企画に参加したいと思います。
・学生の参加が少なかったのが残念です。
・「井の中の蛙、大海を知らず」で、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
・両国間の政治的な事柄で、今まで培ってきた民間交流が途絶えないように、今後は民間から政治を動かせるような交流を願います。
・若い人が日韓について一生懸命考えていることを、もっと多くの人に知ってもらう機会が、さらに増えることを期待します。
・今後もこのようなシンポジウムなどに参加したいと思った。
・楽しく聞くことができた。若い人たちの参加できる企画を多くしてもらえればと思います。
・次回こうした機会があれば、もっと踏み込んだ日韓関係を聞いてみたいと思います。
・貿易や観光の経過が良くわかった。人の交流が大切。
・民間交流が大切と実感。
・今までより近い日韓を創ろうと思った。
・何を目的としているのか分からなかった。未来に向けた日韓交流とは何なのか具体的に示すべき。
・韓国のことをもっと知りたいと思った。
・韓国から見た日本ついて参考になった。私が考えていたことと違うように思えた。韓国の社会、若い人、高齢者のことが知りたい。学生さんがしっかりと意見を述べられたと思う。
・総領事の話が聞けて大変良かった。
・日本に韓国を理解することだけを要求し、日本を理解することが欠けている。これでは良好な関係が築けるはずがない。
・日韓の相互理解の話をもっと深く聞きたいと思った。
・期待していたが何度も同じような話を聞きました。心に残る様な事が欲しかった。学生の発言はとてもよかった。
・若い人の発言が聞けて有意義でした。お互いに違い（考え方、文化、・・・）を尊重する。

日韓関係の未来探る

学生ら北九州でシンポ

日韓の市民や学生が交わり、一緒に未来について考える催しが、北九州市八幡東区の九州国際大などで開かれた。市内在住の在日コリアンや日本人、学生ら約300人が参加し、日韓関係について思いを語った。

シンポは14日にあり、朴鎮雄・駐福岡韓国総領事が講演。文化、経済の面からも日韓両国が力を合わせることが互いに大きな利益になると説明。ギクシャクしがちな今の日韓関係については「互いに少し譲れば解決できるものが多い」と述べ、九州の自治体や市民の草の根交流が糸口となることへの期待を示した。

その後、森脇喜一・同大国際関係学部教授の司会で市内の大学に通う日韓の学生ら若者5人が体験や考えを発表した。韓国では日本のように遠回しな言い方をせず率直に表現するといったコミュニケーションの違いなどを気づいた点として示した。

今後の日韓交流について、九州工業大大学院工学府1年の坂東広太郎さんは「人の往来が大事。ネットでは分からないことを知った人が周りに伝え、そしてその人も韓国に興味を持つ。そうやって理解が広がる」と話した。

日本で4年以上学んでいるという韓国出身の九州国際大国際関係学部4年の任昌敏さんは「ニュースなどの一部の情報で簡単に相手のイメージを持ってしまうのは残念なこと。皆が自分の考えを持つようになれば、たとえ批判的な意見でも日韓関係のこれからに役に立つと思う」と語った。

イベントは「在日同胞と日本人の市民が一緒に集う場をつくろう」と、在日本大韓民国民団の北九州地区の関係者らが九州国際大の教授らに呼びかけて初めて開いた。10キロと7キロを歩く交流ウォーキングの後、シンポジウムに参加。最後は参加者でバーベキューを囲み、交流を楽しんだ。

（後藤たづ子）

朝日新聞
2016年（平成28年）2月24日　水曜日

＜主 催＞

国際交流ウォーキング大会＆日韓シンポジウム実行委員会

北九州地域民団各支部、九州国際大学、日韓交流連絡会
NPO 法人北九州ウォ―キング協会、NPO 法人翔青会

＜後 援＞

駐福岡大韓民国総領事館、北九州市、北九州市教育委員会

（公財）北九州国際交流協会、（公社）北九州市観光協会、JICA 九州

九州国際大学